

第二十三回

(平成二十九年 度)

平成独楽吟

福井に生きた幕末の歌人、橘曙覧（たちばなのあけみ）。

曙覧が詠んだ一連の作品として『独楽吟』どくらくぎんがあります。

『独楽吟』は、「たのしみは」で始まり「…とき」で終わる形で詠まれた五十二首の連作の短歌で、貧しいながらも心豊かに日々を暮らしていた、曙覧の様々な楽しみが詠み込まれています。

はじめに

へいせいどくらくぎん平成独楽吟では、この『独楽吟』の世界に学び、何気ない日常の中で感じた身近な楽しみ、ささやかな楽しみを詠んだ歌を募集しています。また、正岡子規に「万葉集や実朝以来の歌人」と絶賛された曙覧にちなみ、テーマを設けた短歌もあわせて募集しています。今回は、「旅」をテーマとした短歌を募集しました。

独楽吟部門に九〇二九首、テーマ短歌部門には七七二首、両部門合計九八〇一首のご応募をいただきました。ありがとうございました。

それでは、たくさんの応募作品の中から入賞・秀作に選ばれました作品を、各部門の総評とともに紹介いたします。「たのしみ」の歌、「旅」の歌をどうぞお楽しみください。

もくじ

はじめに

第二十三回平成独楽吟 入賞・秀作作品と総評

独楽吟部門 審査員 …………… 4

独楽吟部門 入賞・秀作作品 …………… 5

独楽吟部門 総評 …………… 10

テーマ短歌部門 審査員 …………… 20

テーマ短歌部門 入賞・秀作作品 …………… 21

テーマ短歌部門 総評 …………… 25

第二十三回平成独楽吟 応募結果 …………… 32

第二十三回 (平成二十九年 度) 平成独楽吟

入賞・秀作作品と総評

独楽吟部門

審査員

市村善郎

歌人

橋谷桂子

童話作家

佐孝石画

俳人

足立尚計

歌人

独楽吟部門

橘曙覧賞

たのしみは異国に働く夫つまの膝帰ればおさなの椅子になるとき

福井県丸岡里美

独楽吟部門 入賞作品

福井県知事賞

たのしみは名は知らねども折々に逢う少年の笑みてくれるとき

沖縄県 今岡久代

福井市長賞

たのしみは孫と川の字しりとりの方が小さく消えていくとき

大阪府 松井詔子

福井県教育委員会賞

たのしみは学期はじめの一日目少し変わったみんなを見るとき

茨城県 金正ののか

福井市教育委員会賞

たのしみは子と指す将棋手加減の余裕が日ごと減っていくとき

福島県 石川 誠

福井新聞社賞

たのしみはふたりの曾孫が走りきて右と左にぶらさがるとき

広島県 土居昭子

日本放送協会福井放送局長賞

たのしみはあやしたあとのいもうとのすごくかわいい笑顔みるとき

石川県 森本海斗

福井中央郵便局長賞

たのしみは青空見あげおべんとう友と一緒にふたあけるとき

石川県 生駒昌汰

熊本市賞

たのしみは積った雪に大の字を自分の大きさを確かめるとき

福井県 大佐々 康 毅

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

たのしみは手のひらほどの靴履かせ歩幅合わせて散歩するとき

神奈川県 松 村 美知子

学校賞

石川県 金沢市立菊川町小学校

福井県 越前町立城崎小学校

たのしみは稲の匂いの流れくる町中の田の傍通るとき

滋賀県 井田 壽一

たのしみは自転車乗って息吸ってトンビになって坂下るとき

静岡県 鈴木 愛菜

たのしみはひらがなだけの文通で孫と二人の秘密持つとき

山口県 熊本 芳郎

楽しみは子の運転の路線バス他人の顔して乗ってみるとき

宮城県 畠山 昭二

たのしみはにっこり笑い声をかけまぶしい朝にほめられるとき

福井県 太田 夢華

たのしみは父といっしょに休日にさしみやてんぷら配達するとき

福井県 玉木 福真

たのしみはまいとし夏のなしがりのわたしの仕事の店番するとき

福井県 西本 叶望

たのしみは父が銀行行った時父のきげんが少しいい時

福井県 川端 希利

たのしみは世界で一番あたたかい家族みんなで過ごしているとき

愛知県 藤井 奏美

たのしみは午後の歴史の授業中君の寝顔を盗み見るとき

福井県 前川 玲奈

たのしみは傘寿の父が勇ましく凧を操る姿見しとき

福島県 佐藤 美弥子

たのしみは50m走りきり何秒ですかと息はずむ時

福井県 山上 楓 太

たのしみはこんじょうこもった白球をぼくがカキーンと打ち返す時

北海道 小林 真大

たのしみはドンドンカッカたいこをたたきチームみんなでわぎきめる時

福井県 宮崎 春陽

たのしみはどんぐりひろう木の下でどんどんふくろが大きくなる時

福井県 刀根 隼

たのしみはいとこ全員集まって横に並んで背くらべするとき

岐阜県 杉山 凜

たのしみは父のメールの着くたびに届いてるか電話来るとき

福島県 堀 卓

たのしみは顔を見るたび「あんた誰？」百寿の祖母の笑顔みるとき

福井県 高嶋 京子

たのしみは妻のバス旅思い出をわが病床で嬉々と聞くとき

群馬県 千島 宏明

楽しみはビルのない駅降り立ってサングラスかけ父を待つとき

兵庫県 藤野 美幸

独楽吟部門総評 審査員長 市村 善郎

こんにちは、市村でございます。今回初めてこの部門の審査員長になりました。まず驚いたのは、九千首という歌ですね。今年初めて九千の大台に乗ったんですけれど、その九千の中から選ばれたほんの僅かの入賞作品、本当に良い歌を選んだと思うし、それから選ばれた方々、本当に改めておめでとうございます。良かったなあという思いです。

さて、作品ですけれども、「たのしみは」という一つの課題を与えられて作った歌なんですけれども、こういう作品はね、ずっと読んでいましたら「たのしみは：とき」というのは、予知できる未来を歌うんだ。そんなことを感じながら読みました。多分こうなるだろうというものがあって、それを待ってる、それを見つけたその時の喜びみたいなものが、この作品のなかに入って、そうですね、で終わっていないんですね。そこをしっかりと読むと、歌を読むだけで批評いらなないと思うんですけど、勤めですから、ちょっと一言ずつと思います。

橘曙覧賞の丸岡さんの作品です。

橘曙覧賞

たのしみは異国に働く夫の膝^{つま}帰ればおさなの椅子になるとき

福井県 丸岡 里美

夫が海外に赴任している、おそらくは単身赴任なんでしょうね。帰って来ると小さい子がいる、その子が、帰って来るとははじめちょっと恥ずかしそうにしながらだんだん近寄って、後には夫の膝を独占して座って動かない。そうい

うのが何回か繰り返しある。もうすぐまた休暇かなんかで帰って来るんでしょね。だから、書いてありませんけど、子どもよりも作者の方が待っているんだろーと思うんですが、しかし、夫が帰って来るうれしい気持は押さえ、その膝をきつとあの子今度も座って動かなくなるよと思う。幸せ感が伝わって、それがいいなあと思いました。

福井県知事賞

たのしみは名は知らねども折々に逢う少年の笑みてくれるとき

沖繩県 今岡久代

知事賞の今岡さん、今日ご欠席ですけど、「折々に逢う少年の笑みてくれるとき」、少女みたいな感じで映っている。短歌というのは、年齢に関係なく清純の気持ちはずーっと持ち続けることができる文学だと思うんで、そういうところがいいかなと思いました。

福井市長賞

たのしみは孫と川の字しりどりの声が小さく消えていくとき

大阪府 松井詔子

最近少なくなっただんですけど、我々子供の時は、大体幾つかになると親の部屋から別れて、じいちゃんばあちゃんの家へ行って、それから独立して自分の部屋へ行くという、そういうパターンを辿ったんですけど、そういうのがここにまだあるのが、懐かしいなあと思いました。お孫さんを真ん中に挟みながら両脇でじいちゃんとお話を、しりとりをする。これも毎パターンなんです。何って言うのか、予知できる未来というとおかしいんですけど

れども、やっているうちに「またこの子、声だんだん小さくなるわ」といってカラス・スイカとかってやっている
と、だんだん小さくなって「あら、寝ちゃったよ」と、そういうのが見えます。見えるのが良いなと思います。

福井県教育委員会賞

たのしみは学期はじめの一日目少し変わったみんなを見るとき

茨城県 金正 ののか

おそらくこれは、学期はじめの一日目というのは二学期かなあというふうに私は思いました。夏休みが終って、子どもって夏休みの間に成長するんですね。みんなどんなふうになって来ただろうという、あの子、日に焼けて黒くなってきたかなあ、とかいろいろあるんですね。そういうのを子どもの目から見て、少し変わったみんなを見る。私も変わっているんだろうけど、期待感を捉えたところが良いなと思いました。こんな目で友達を見ているのって良いなと思いました。

福井市教育委員会賞

たのしみは子と指す将棋手加減の余裕が日ごと減っていくとき

福島県 石川 誠

これもあまり説明のいらぬ歌ですけども、はじめは負けてやったりしていたのがそのうち真剣になって、まだしばらく負けられないぞに変わってゆく。そのお父さんの喜びが、本当によく出ているなあと思いました。その変化です、ね、余裕が日ごと減っていく、その減っていくのを自分で納得しながらまた反発しながらやっている。親心で、父

親の心なんですね。良いなあと思います。

福井新聞社賞

たのしみはふたりの曾孫が走りきて右と左にぶらさがるとき

広島県 土居 昭子

二人の曾孫が走って来て、曾孫さん、いくつぐらいわかりませんけども、右と左からぶら下がっている。おばあちゃんの筋肉が見えるような。だから読んでいて読者が楽しい、元気をもらえる。そういうところが良いなあ、やっぱり短歌だなあと思いますし、こうなんですよというのではなしに、そこが良い。

日本放送協会福井放送局長賞

たのしみはあやしたあとのいもうとのすぐかわいい笑顔みるとき

石川県 森 本 海斗

これは良いお兄ちゃんだなあと思います。この歌なんかも、何回も経験があるから、こうやってやってるとこうなるんだが、わかっている。それが思った通りに、すぐかわいい笑顔を見せてくれる。もうすぐだ、もうすぐだ、今に見られる、そら笑ったとなる。楽しいなあって。そこが真っ直ぐに詠われている。良いですね。

福井中央郵便局長賞

たのしみは青空見あげおべんとう友と一緒にふたあけるととき

石川県 生 駒 昌 汰

これは今の小学生の歌なんですけど、私らみたいな老人、これだけ歳が離れているものが読んでも自分の若かった

自分をそのまま、また思い出させてくれる。青空を見上げて弁当箱のふたを開ける。母に昨日頼んだ卵が入っているかなあとかっている、そういう期待感、友と一緒にふたあけるときの、これは当然楽しみだよ、というのが見えてくる。そこが良いと思いますね。

熊本市賞

たのしみは積った雪に大の字を自分の大きさ確かめるとき

福井県 大佐々 康 毅

新しい新雪の上に両手広げて、ばさっと倒れたんでしょね。そこで、それを倒れただけって言わない、自分の大きさを確かめるといふ発見をしたところが良かったなと思います。

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

たのしみは手のひらほどの靴履かせ歩幅合わせて散歩するとき

神奈川県 松 村 美知子

この歌はやっぱり「手のひらほどの靴」という例えがいい。これでもうみんなわかってくる。その子どもさんがどの位の年代なのかどうなのか、ぜんぜん説明しなくても、これで充分。それと、その子と歩幅を合わせるということだから、相当ちよこちよこ歩きしないといけないと思うんですけど、その動きまで見える。そこが良いなあと思います。それでおばあちゃん、この幼子の足元見ているだけで、周りはさっぱり見えていないんだろうと思うんですけど。余計なお世話ですけど、何かにぶつからない様にしてもらえると良いなと思います。そういうよけいなところま

で思わせるのが良いのです。

秀作は出席の方の作品だけ触れたいと思います。

たのしみは自転車乗って息吸ってトンビになって坂下るとき

静岡県 鈴木愛菜

「自転車乗って息吸ってトンビになって、このて・て・て、という追い落としというかこれが短歌の技術、作家の技術からいうと相当高いものを持っていると思いました。「トンビになって坂下るとき」というこの言葉の勢い、これは良いですよ。これは正直、秀作の中には何点か、もっと賞があったらそれに入れたい、というのがあったんですけど、その中の一つですね。

楽しみは子の運転の路線バス他人の顔して乗ってみるとき

宮城県 畠山昭二

畠山さんの「子の運転の路線バス」、これはこのままなんですけど、どういう方がどんな顔して乗るのかなあと思っ
って楽しい。先ほど出て来られましたから、ああこういう方が他人の顔して乗るんだなあと思いました。そこが何か
良いですね。周りに乗っているお客さんは、知っている人だと楽しいのでしょね。あいつ知らん顔して乗ってる
な、知らん顔が出来るような人でしたね。良かったなあと思います。

たのしみはにっこり笑い声をかけまぶしい朝にほめられるとき

福井県 太田夢華

「まぶしい朝にほめられる」というのが審査員の中で好評だったところなんですけど、この歌はある意味ではちよ

っと難しいんですよ。誰に、というのが入ってないんだね。「にっこり笑い声をかけ」、誰にほめられる、誰に、というこのところが広がる。朝会った人もしくは朝起きてお母さん、そういう身内の方かも知れないし、それからもうちょっと大人っぽく、太陽に声を掛けたらまぶしい太陽が光り返してくれたというふうにも取れる。短歌というのは、こうだからこうですよってすっかり書いてなくても、読者がいるんなどころに広げて見られる、そこが良いので、この歌はそういうことからいくと、相当高等的テクニックな歌ですけど、すっかりこんなことを覚えておきながら、来年また良いのを見せてください。

たのしみはまいとし夏のなしがりのわたしの仕事の店番するとき

福井県 西本 叶望

「なしがりのわたしの仕事の店番する」、いいなあと思います。お手伝いまで出来て、果樹園かなにかやっているんでしょかね。だから梨園でしょかね。私の仕事、だから去年もやったんでしょね、この方は。それが、そのまんままた来て働いている、良いなあっていう、読んで読者がいいなと思う、そういう作品になっています。

たのしみは父が銀行行った時父のきげんが少しいい時

福井県 川端 希利

お父さんが銀行へ行った時、そして「父のきげんが少しいい時」、銀行へ行ったから機嫌良くなったのか、そこらちよっとわかりませんかけれども、銀行で何があったんでしょかね。そういうところを捉えている。これを読んだ時に、子どもはいろんなところを見ているもんだなああって、そういう発見を読者にさせてくれた。そういうところが良

いなと思います。

たのしみは世界で一番あたたかい家族みんなで過ごしているとき

愛知県 藤井奏美

「世界で一番あたたかい家族」、こうやって言いきれぬ家族を持っているということは良いなど。これは、そのまんま押し出してくださったのが良かったです。

たのしみは午後の歴史の授業中君の寝顔を盗み見るとき

福井県 前川玲奈

「午後の歴史の授業中君の寝顔を盗み見る」、女の子なんです、良いですね、高校生ぐらいかな。だいたい午後でしょ、お昼終わってから何かだるみますわね。お昼食べるから大体午後の授業は眠くなる。当然歴史と言うのは一番眠いんで、そこで君の寝顔見る。良いなあって、やっぱりおじさんは思うんですよね。私なんかおじいちゃんですけどね。でも、ここに立っているとおじさんのつもりなんです。おじさん思うんです、良いなあと思いますよ。

たのしみは50m走りきり何秒ですかと息はずむ時

福井県 山上楓太

50m走って、何秒ですか？、という走り切った、きつといい記録出ているぞというその自信がある。何秒ですかと言って、きっと前のより良かったんだ。その一瞬。陸上競技などの歌はいっぱいあったんですけど、この歌は具体的だし、何か走っている子が見えたので、この歌は秀作へ推しました。

たのしみはドンドンカッカたいこをたたきチームみんなでわぎきめる時

福井県 宮崎 春陽

これはクラブというか何かそういう団体でしょうかね。ドンドンは太鼓の真ん中叩いて、カッカは縁なんでしょうかね。そういうことをして最後にパッとみんな同じ形でバチを出して止まる。出来た、という感じのそこがまた経験なんかもあるんでしょうけど、良いだろうと思いました。

たのしみはどんぐりひろう木の下でどんどんふくろが大きくなるとき

福井県 刀根 隼

これも子どもらしくて良いですね。どんどんふくろ、ふくろは大きくならないんですけど、ふくろが膨らんでくるんですね。どんぐりが増えるから、どんぐりどうするんでしょうね。学校でリスでも飼っているのかな、と思いがらいますけれど、どんぐりでコマ作るのかな、私らはコマ作りましたけどね。楽しさが見えます。

たのしみは顔を見るたび「あんだ誰？」百寿の祖母の笑顔みるとき

福井県 高嶋 京子

「百寿」と言うのは、あんまり私は知らなかったのですが、「百寿」ってやっぱり言うんですね。「あんだ誰？」と言いなながら、その祖母の笑顔を見るのが楽しみだって言う、この優しさが良いですね。今の現代で一番大事などころだろうと思いました。この「あんだ誰？」はよくあるんですが、その笑顔がおばあちゃんもそれでも笑顔をつくれるおばあちゃんであるし、その笑顔を敬っている作者がいる、そこが私達の安らぎでした。

学校賞

石川県 金沢市立菊川町小学校

菊川町小学校は三十首の応募でした。全体に作品が揃っていましたが、そこがよろしかったのです。それと三十首読んでいて私が印象したのは、先生のアドバイスというか、それが効いているのか知らないですけども、類型があまりなかったですね。そして、手の跡が、先生の手の跡がなかった、そこが今度推薦した理由です。

福井県 越前町立城崎小学校

城崎小学校は八首の応募です。学校単位の応募としては、おそらく一番少なかったのかも知れません。しかし、その八首が八人八様揃っていました。これは指導する先生が良かったんだろうと思う。「たのしみは何々のとき」というのは、自分の予測出来る、もしくは経験したたのしみがまた来るだろうと、そのところにひとつの見どころがあると私は思うんです。「たのしみは積った雪に大の字を自分の大きさ確かめるとき」の作者は、城崎小学校でした。こういう作品が出てくるような指導をしてくださると、後にも活きると思います。生徒さんは少なくとも良い作品が揃った、八首とも良かったなあと私は思いました。

テーマ短歌部門

(テーマ「旅」)

審査員

福島泰樹

歌人

加賀要子

歌人

喜多昭夫

歌人

足立尚計

歌人

テーマ短歌部門（テーマ：旅）

橘曙覧賞

この道がバージンロード父は娘の精霊船に寄り添って行く

長崎県 牧野弘志

テーマ短歌部門 入賞作品

福井県知事賞

君かへし一人のこれる旅の宿朝の卵の黄の色淡し

熊本県 池崎 充徳

福井市長賞

『放浪記』読みさし仰ぐ車窓には夕べの空の青ひとにぎり

神奈川県 合志 義文

福井県教育委員会賞

最後かもしれない子等と向き合って一緒に食べる里の駅弁

福井県 中川 潔

福井市教育委員会賞

巡礼の四国路旅する老夫婦すすき野原を笠二つゆく

千葉県 河野 雅子

福井新聞社賞

人情が見知らぬ土地に生きており国境くにぎみの海ただただ碧く

佐賀県 浦田 穂積

日本放送協会福井放送局長賞

倒木のブナの林は深海を旅するに似てくぢらが眠る

宮城県 畠山 昭二

福井中央郵便局長賞

眠られぬ夜はジュピター聞きながら銀河を旅する「はやぶさ」になる

愛知県 横井 正男

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

若き日に揺れゐる心を抱きつつひとり訪ねし秋の室生寺

福井県 落谷 美予子

二十四で帰らぬ旅に出ようとはなぜなぜなぜ問えど答えず

神奈川県 森江武典

旅終えしわれを待ちしか我が庭は金木犀の香り満ちたり

香川県 玉井節子

定年の記念の旅来て妻に指す若き日居たる特攻基地跡

石川県 岡本邦夫

野の径はトノサマバツタ・ヒキガエル児は恐龍の国を旅する

宮城県 畠山みな子

りよこうでねみんなのえがおみていたら自分もえがおきてよかったな

鳥取県 見生涼子

据ゑ膳のもてなし受けて湯の宿に手持ち無沙汰の妻を可笑しむ

大分県 長畑孝典

一片の骨で良いから戻れよと老いし義母は言う旅を終わらせ

岩手県 伊藤ヨシ子

サンダルに沖縄ビーチの砂付けて修学旅行の孫帰宅する

徳島県 坂東典子

温泉にまた行きたいなばあちゃんの背中一番に流してあげる

徳島県 阿地しずく

発つ日よりやや大人びた少年の顔くしゃくしゃに搔き抱く駅

北海道 福永敬子

家族旅行楽しい反面さみしいと思うは一人の祖父を思うとき

岐阜県 大林 明日香

北の地に夏めく香の花畑大阪弁の君夢語る

京都府 松岡 彩夏

背伸びして待つ母いなき故郷ふるさとの改札抜けて旅人となる

京都府 田久保 ゆかり

潮騒を聞きにきたのと一人旅の少女はすこし裾をぬらして

神奈川県 水野 真由美

路地ゆけば軒の紙垂かみしりま白きにけふは鎮守の祭りなるらし

静岡県 河田 琴栄

亡き父のカメラに残るフィルムに父の旅した夕焼けの空

奈良県 水谷 あづさ

夢を追いかけた君を追いかけた乾いた大地ここはアフリカ

岐阜県 鷺見 秀樹

公園に展示されてる機関車で恍惚の母旅をしている

埼玉県 松川 涙紅

我が街の見知らぬ小道踏み入れれば一瞬にして旅人となる

京都府 加藤 房枝

旅先で見上げた空はいつもよりひろくて青いそんな気がする

福島県 武田 六郎

ちょうど七年前の今の時間、東北地方に大地震が発生いたしました。私が住む東京もすごい激震でありました。

「秀作」の部に、岩手県の伊藤ヨシ子さんの作品があります。「一片の骨で良いから戻れよと老いし義母はは言う旅を終わらせ」、いまだ二千六百人以上の人々が、戻って来ておりません。おそらく遺体になっている。そして遺族は一生懸命、たとえ骨一片、爪一片、髪一本でもいいから戻って来てくれと、切なくそして海に向かって祈りを捧げていることだと思えます。本当に、秀作とそれから入賞作とどう違うのか、とっても難しいんです。本当はこれ取んなくちゃいけなかった、そういう作品がたくさんあるわけです。本当にね、審査員の先生方が一生懸命選んでくれて、その中でさらに私にその責任が背負わされて、とっても辛いです。そしてこの中に、「路地ゆけば軒の紙垂かみしでま白きにけふは鎮守の祭りなるらし」、この歌は当然、橘曙覧賞取んなくちゃならない作品なんです。いや本当にそんなんです。だけどおそらくこの人はプロ、私より上手いんでね、あえて悩みました。しかし、こういう方が取ると後、応募が少なくなってしまうのではないかと、そのくらい見事に、短歌でしか歌い切れない世界を歌い切っております。すばらしいなと思えました。

入賞作からお話ししたいと思います。

橘曙覧賞

この道がバージンロード父は娘の精霊船に寄り添って行く

長崎県 牧野弘志

まさに今日、大震災七周年の三月十一日に、この日に相応しいから採ったわけではございません。なんとという旅であるのか。しかも、そのバージンロード！本来なら娘とこうして腕を組んで、歩いて行く。そのバージンロードがですね、お嬢さんの精霊船、なんと切ない。そしてこういう現実があるんだなあと、改めて思いました。こういう感動、真実の感動、涙が出る感動でありました。

福井県知事賞

君かへし一人のこれる旅の宿朝の卵の黄の色淡し

熊本県 池崎充徳

池崎さん、おめでとうございます。もっと若い方かなあとも思いました。なぜ選ばせていただいたかと申しますと、相聞歌、愛の歌が少ない。あるにはあるんだけど、要するに男と女の歌、それが少ないんで、あえてこの歌をとりました。これはあの、「君かへす朝の舗石さくさくと雪よ林檎の香のごとくふれ」でしたか、白秋の名吟がありますけど、その本歌取りだと思えます。「君かへし一人のこれる旅の宿朝の卵の黄の色淡し」、読み比べてください。しかし何で一緒に帰らないで、一人だけ帰したんだって、いろんな事を想像させる。訳ありの歌であると思いませんか。しかし、卵の黄の色が「淡し」のところはね、悲しみが満ちてるんだな。そのあたりが良いなと思った訳であ

ります。

福井市長賞

『放浪記』読みさし仰ぐ車窓には夕べの空の青ひとにぎり

神奈川県 合志義文

『放浪記』は、下関生まれの作家林芙美子の半生を綴った自伝的作品。故郷をもたない宿命的放浪者芙美子の自伝を読みさし、旅の車窓から見上げた夕暮の空……。私は「夕べの空の青ひとにぎり」の美事な措辞に、舌を巻いてしまいました。この「青」は、見果てぬ夢の、しかしいつかはこの手で掴みとってやる希望の譬喩でありましようか。

福井県教育委員会賞

最後かもしれない子等と向き合って一緒に食べる里の駅弁

福井県 中川 潔

一緒に食べるものはいろいろあるもんです。「里の駅弁」というところが泣かせるんです。生活の匂いがする。この「一緒に」の背後には、どういうドラマがあるのか。それが短歌なんだな、全部書けないんです。暗示するんです。それを読み手は想像するんです。そういう面白さに満ちている。いや、悲しみに満ちている作品ではないかと思えます。

福井市教育委員会賞

巡礼の四国路旅する老夫婦すすき野原を笠二つゆく

千葉県 河野 雅子

この方は常連で、今回はお見えにならなかったんだけど、相変わらず美事だと思って。なにとぞ、よろしくお伝え下さい。「すすき野原を笠二つゆく」、パッと頭の中に映像が映り出されてゆく。

福井新聞社賞

人情が見知らぬ土地に生きておりくにさかい国境の海ただただ碧く

佐賀県 浦田穂積

人情がね、失われていく昨今でございます。電車に乗っていると不愉快だぞ、年寄りが立っていたって、スマートフォンいじって、わざと気付こうとしないんだな。しかしこういう歌がある限り大丈夫です。ちゃんと人情がまだまだ息づいている、安心いたしました。「ただただ碧く」、ここがいいなと思いました。

日本放送協会福井放送局長賞

倒木のブナの林は深海を旅するに似てくちらが眠る

宮城県 畠山昭二

お父さんの顔見るんじゃないかった！もっととってもね、若い、初々しい方の作かと思っておりました。しかし、美事だなぁ、そしたらなに、畠山みな子さん「野の径はトノサマバッタ・ヒキガエル児は恐龍の国を旅する」、同じテーマでね、これも素晴らしい作品で、でも二つ入れるわけにもいかないと思って、こっちのほうを採りました。「くちらが眠る」ってのはいいよね、想像力なんだよね。ひとつのもの、見たものから何を想像するか。それが歌の醍醐味でもあります。短歌を書くことによって、想像力を養ってゆく。人間が豊かになってゆくんです。僕は写真が好き

でね、街はどんどん風景変わっていきますけれども、自分でファインダー覗いてシャッター切ったもの、それはどんなに無くなっても、いつまでも覚えてる。それと同じに短歌もそうなんです。僕は七千首以上今まで作ってきたけれども、一首一首、それを作った時の情景をみんな覚えていきます。だから福島は記憶がいいなど言われますが、それは短歌を書いているからなんです。歌を見ると、その時の人の顔まで浮かんでくる。そういうふうには歌ってのは、人生を豊かにするものじゃないかとも、思うわけがあります。

次はちょっとキザだな。

福井中央郵便局長賞

眠られぬ夜はジュピター聞きながら銀河を旅する「はやぶさ」になる

愛知県 横井正男

これも見事な歌で、ジュピターはローマ神話の「天空神」。モーツァルト作曲の交響曲第四十一番の通称でもあります。「はやぶさ」になるってね、想像力の転換の素速さ、いろんな事を考えさせる一首であります。

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

若き日に揺れぬ心を抱きつつひとり訪ねし秋の室生寺

福井県 落谷美予子

しみりしてくる、追憶に満ちた悲しみ深い名吟だと思って詠ませていただきました。

そして「入賞」作品と「秀作」とに境がないと申し上げましたけれども、「秀作」の中にたくさん良い作品がございました。

サンダルに沖縄ビーチの砂付けて修学旅行の孫帰宅する

徳島県 坂東典子

今日は徳島県から坂東典子さんとお孫さんの阿地しずくさんが、お二人共に受賞されてお見えになっております。これ良い歌で、ちょっと悩んだよな、どうしようか。卵の歌採っちゃおうか、こっちにしようかと、いろいろ悩んだんですけども、結局こちらが秀作になりました。良い歌です。

温泉にまた行きたいなばあちゃんの背中一番に流してあげる

徳島県 阿地しずく

これもね、迷いました。しかし去年、学生というか生徒たちの歌をたくさん採ったんで、今年はちょっと控えさせていたどうかかなと思って。でもこれもとっても涙が出るほど良いなあ、お婆ちゃんと孫。孫が、お婆ちゃんと二人旅。そして温泉へ行って一番で背中流してくれる、たまらない歌であります。徳島からお二人でお見えになっております。

それから、良い歌がたくさんありました。お見えになっている方の作品を読ませていただきます。

夢を追いかけた君を追いかけた乾いた大地ここはアフリカ

岐阜県 鷺見秀樹

「夢を追いかけた君を追いかけた」。本当は「君」を追いかけているんだな。「夢を追いかけた」を先に歌うことに

よって、「君」の存在がきわだってゆく。とっても良い作品です。

そしてあと、心に残った作品を何首か読ませていただきます。

公園に展示されてる機関車で恍惚の母旅をしている

埼玉県 松川 涙 紅

そうなんだよな。汽車を見てお母さんが昔の思い出にふけて旅をしている。それをみているこの子の思いが伝わってくる。佳い作品であります。

我が街の見知らぬ小道踏み入れれば一瞬にして旅人となる

京都府 加藤 房 枝

そうなんです、遠くへ汽車に乗って行くだけが旅ではない、私達は毎日旅をしているんです。新たな経験に向かって旅をしているわけでありませう。ちょっと知らない道に入る、それもまた新たな出会いの旅であります。そんな事を詠ったこの歌も優れた作品でありました。

旅先で見上げた空はいつもよりひろくて青いそんな気がする

福島県 武田 六郎

そんな気がするってのが、「そんな気がして旅に出たく♪」って昔、流行歌がありましたけれど、上手いなど思いました。

本当に来年から入賞作を二十に増やしていただきたいと思いました。

ありがとうございました、おめでとうございます。

第23回（平成29年度） 平成独楽吟 応募総数

	独楽吟部門		テーマ短歌部門		計		独楽吟部門		テーマ短歌部門		計
	ハガキ等	ネット	ハガキ等	ネット			ハガキ等	ネット	ハガキ等	ネット	
北海道	177	6	11	2	196	大 阪	238	53	16	19	326
青 森	3	3	2	2	10	兵 庫	575	20	16	18	629
岩 手	3	2	4	1	10	奈 良	39	7	30	5	81
宮 城	17	8	5	5	35	和歌山	3	2	2	0	7
秋 田	5	2	2	1	10	鳥 取	22	2	18	2	44
山 形	6	4	5	3	18	鳥 根	2	3	3	3	11
福 島	7	7	4	5	23	岡 山	4	8	2	5	19
茨 城	50	9	5	7	71	広 島	23	8	2	2	35
栃 木	2	4	2	3	11	山 口	78	5	2	3	88
群 馬	46	4	3	2	55	徳 島	4	2	3	0	9
埼 玉	230	11	10	6	257	香 川	7	2	5	1	15
千 葉	26	30	13	20	89	愛 媛	2	2	3	3	10
東 京	211	48	16	27	302	高 知	4	1	4	1	10
神奈川	134	26	14	14	188	福 岡	89	22	11	9	131
新 潟	18	3	6	2	29	佐 賀	3	2	3	2	10
富 山	9	3	0	2	14	長 崎	185	2	1	4	192
石 川	623	5	9	1	638	熊 本	95	37	5	3	140
福 井	4,621	51	205	22	4,899	大 分	8	2	2	1	13
山 梨	71	4	1	1	77	宮 崎	5	9	3	6	23
長 野	140	1	1	0	142	鹿 児 島	132	4	1	1	138
岐 阜	403	4	31	6	444	沖 縄	2	2	2	2	8
静 岡	152	8	7	9	176						
愛 知	57	18	12	13	100	外 国	0	0	0	0	0
三 重	10	4	2	2	18	不 明	0	0	0	0	0
滋 賀	7	5	4	5	21	総 数	8,553	476	512	260	9,801
京 都	5	11	4	9	29	総応募数	9,029		772		

応募者（年齢）

年代別	独楽吟部門		テーマ短歌部門		計	年代別	独楽吟部門		テーマ短歌部門		計
	ハガキ等	ネット	ハガキ等	ネット			ハガキ等	ネット	ハガキ等	ネット	
10歳未満	183	2	18	0	203	60代	177	110	84	73	444
10代	7,680	94	185	11	7,970	70代	193	36	70	25	324
20代	10	26	8	18	62	80代	104	6	39	6	155
30代	23	59	17	28	127	90代以上	21	2	8	2	33
40代	39	59	29	43	170	不 明	45	0	8	0	53
50代	78	82	46	54	260	計	8,553	476	512	260	9,801

主催
福井市

公益財団法人 歴史のみえるまちづくり協会

共催
日本放送協会福井放送局

福井新聞社

後援
福井県

福井県教育委員会

福井市教育委員会

福井中央郵便局

福井本丸ライオンズクラブ

協賛
熊本市

第二十三回（平成二十九年年度）

平成独楽吟

二〇一八年五月 発行

発行 福井市

〒九一〇-八五一

福井市大手3丁目10番1号

〇七七六（二〇）五三六七

編集

公益財団法人

歴史のみえるまちづくり協会

〒九一八-八〇〇七

福井市足羽1丁目6番34号

福井市橘曙覧記念文学館内

〇七七六（三五）〇八五五